

(3) 異世代交流、地域間交流をすすめるアクティビティ

ア 地域の達人に学ぶ竹細工づくり

子ども交流・体験活動事業名：「竹細工 - 竹の器とお箸づくり -」

アクティビティのねらい

- ・さまざまな年齢・地域の人々が交流する機会とする。
(農山間地域の高齢者・婦人会の指導者、中学生サポーターなど)
- ・市町村合併にともなう地域間の交流と各地域の特色を発見する機会とする。

実施時期

6月下旬～9月下旬(流しそうめんが寒くない時期) 昼食をはさみ4時間程度

対象・参加人数

小学生、中学生 100名程度

実施場所

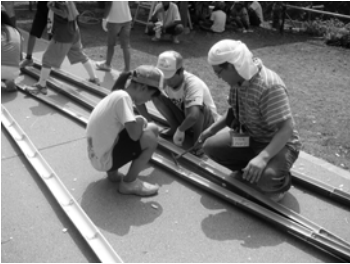
竹細工など山里体験できる施設

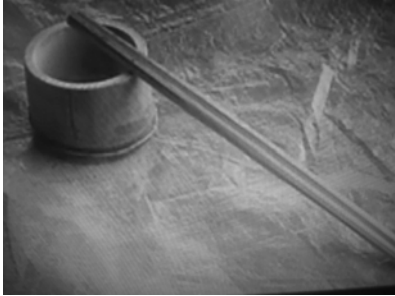

準備物

竹・ロープ・ホース・ザル・ブルーシート・軍手・金づち・のこぎり・のみ・なた・小刀・

紙やすり 等

アクティビティの展開

指導	進め方(指導者の動き)	実施上の留意点
準備	<p>参加者には事前に活動の留意点やねらいを知らせる。 事業の目的が「交流」であることをサポーター(指導者)間で再確認。 刃物等の道具の安全点検。 竹等の材料、汚れ防止のシート等の備品を準備。 水分補給用のお茶や救急箱を用意。 スタッフにて進行を最終確認。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人数に応じたスペースの確保
導入	<p>みんなで集合・整列・あいさつ。 活動の内容について説明。 道具の使い方についての注意事項を説明。 班分け。地区ごと混合の班編成。 (流しそうめん準備班と竹の器とお箸づくり班) 活動場所へ移動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・けがをする危険性について強調する。 ・子どもを観察し、前日の疲れや体調を把握する。
展開	<p>流しそうめん準備 竹を縦半分に割り、竹の節を抜く。 竹を樋状に組んで水路をつくる。 木を組んで脚をつくる。 脚に水路を載せて固定。 水路の最上部にホースを取り付ける。 ブルーシートで日よけをつくる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・刃物等の正しい使用法の指導と、使っていない道具の整理整頓を参加者に促し、担当者は注意する。 ・熱中症対策に日よけを確保。水分補給も随時指示。

<p>展開</p>	<p>竹の器とお箸づくり</p> <p>直径10センチほどの竹をのこぎりで輪切りにする。 器 長さ30センチほどの竹を小刀で細長く割る。 お箸 小刀で竹を削る。 サンドペーパーで器・お箸の表面を仕上げる。</p> <p>指導者：地域の竹細工づくりを指導する指導者組織のメンバーなど</p> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹の輪切りは2人1組で行い、1人が竹をしっかり抑える。 ・竹を割るときは1人が小刀を両手で持ち小刀の刃で竹の割りたい部分を軽く抑える。 ・もう一方が小刀の背の部分を丸木などで叩く。 ・竹は手を切りやすいので必ず両手に軍手をはめて活動するように伝える。  <p>流しそうめん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生サポーターが協力して食材を流す。 ・低学年の参加者から順番に食べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小刀の正しい使用法の指導。 ・使っていない道具の整理整頓と管理をする。 ・食材の衛生管理。(直射日光のあたるところに食材を放置しない等) ・食事の前の、手洗いを徹底する。
<p>ふりかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で作った器と箸での食事をするこでものづくりの楽しさと、大切にすることを育て、食べることに興味を持たせたい。 ・指導員、スタッフ、サポーターのふりかえりも別に行う。 	

アクティビティ作成者の思い

地元の指導スタッフとの綿密な打ち合わせが重要である。事業のねらいを十分に伝え、各参加者が自ら活動して完成するよう手を掛けすぎないことを伝える必要がある。また、地域に竹細工が起こった歴史的、地理的背景などを話してもらうと、より活動地域の理解が進むと思われる。

個人ごとの竹細工づくりでは「交流」を図ることが難しいが、活動に余裕を持たせ、各地域混合のグループ編成なので、会話を楽しみながら作成に取り組むことを促す。

実施上のアドバイス

中学生や高校生のサポーターに道具の管理や流しそうめん担当など役割分担とサポート内容がわかりやすい活動を割り当て、事業を一緒に創る意識を明確に持たせることが大切である。

イ チャレンジ！伝承遊び

子ども交流・体験活動事業名：「であい・ふれあい・わかちあい合宿」
アクティビティのねらい

- ・伝承遊びを通して、異年齢、異世代交流を図る。
- ・子どもたちの自主性や創造性、社会性を養い、健全育成を図る。

実施時期

12月下旬

対象・参加人数

小学生、中学生、高校生 50 名、高齢者 30 名、計 80 名

実施場所

青年の家 講堂他





準備物

こま、めんこ、お手玉、竹流し、ジャンボカルタ、けん玉、おはじき、はねつき、福笑い

両面テープ、模造紙、画用紙、すごろくシート、さいころ、A4用紙、封筒、救急箱他

アクティビティの展開

指導	進め方(指導者の動き)	実施上の留意点
準備	<p>会場設営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ブースの準備 <p>最終確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備が整ったところで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ブースのスペースはきちんと確保されているか、確認する
導入	<p>活動内容説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3部構成で行う。 <p>第1部</p> <p>7種類の伝承遊びにチャレンジ！</p> <p>こま めんこ けん玉 お手玉 おはじき 竹流し はねつき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの遊びについて全体に遊び方を簡単に紹介をする。 <p>ブースで分け、参加者は好きな遊びを自由に楽しむ。高齢者の参加者に子どもたちやスタッフに伝承遊びの楽しみ方を熱心に伝授していただく事で異世代交流がすすむ。</p> <p>第2部</p> <p>ジャンボカルタ取り大会&ジャンボ福笑い大会</p> <p>第3部</p> <p>すごろく de さいころトーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごろくをしながら、止まったところにかいてあるテーマについての話を班のメンバーにする。 <p>進め方</p> <p>全てのブースを回ってもらうために伝承遊びを体験したら「チケット」を配布し、決めた数以上集めると「おやつ」が貰えるルールで各ブースが混雑せずうまく参加者が移動する工夫をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び方の紹介は高齢者の方に披露してもらう。 ・順番を守って行うよう伝える。 ・周囲に気をつけぶつかったりしないように呼びかける。 ・室内は走ったり暴れたりしないことを伝える。

<p>展開</p>	<p>7種類の伝承遊びに チャレンジ！</p>   <p>ジャンボカルタ& ジャンボ福笑い大会</p> <p>年齢別で行ったり読み手を変えながら、全員が参加できるよう工夫する</p> <p>すごろく de さいころトーキング</p>  	<p>・適度に休憩を入れる。</p> <p>・カルタの取り合いのところは滑ったり、転倒したり、ぶつかったりするので特に注意する。</p>
<p>ふりかえり</p>	<p>・ふりかえりカードに個人の感想を記入する。 ・各世代の代表者が今日の遊びの感想（楽しかった点、難しかった点等）について話をする。</p>	<p>・道具（物品）の数を確認する</p>

アクティビティ作成者の思い

子ども、高校生や大学生の青年、高齢者の異なる世代が遊びという共通の活動を通して交流を深めることが目的である。とにかく全員が楽しく遊ぶことが大切であろう。遊びの中で、いろいろな世代での交流があり、さらに自分と同じ年代との交流を深めるということが十分に達成できるアクティビティであろう。

実施上のアドバイス

冬に実施することで作成したが、会場の寒さや高齢者の体調を十分に把握し、休憩を入れること、無理しないことに配慮する必要がある。また、ジャンボかるたなどをラミネート加工して作成する場合、手を切ったり、すべったりしてケガをすることも考えられるので、十分な注意をする必要がある。

ウ 山遊び - Let's 山策 -

子ども交流・体験活動事業名：「であい・ふれあい・わかちあい合宿」

アクティビティのねらい

- ・里山を歩きながら、動植物を探したり、自然の中に身の回りのものと似ているものを探し、デジタルカメラに撮影する。
- ・グループで自然のものを使った創作活動をするによりコミュニケーション能力を高める。
- ・活動エリアの自然に親しみ、自分の身近な自然と比較することにより地理的な自然の変化を知る。

実施時期

季節にあったもので創作活動をするので春夏秋冬いつでも可能

対象・参加人数

小学生、中学生、高校生 約 50 名



実施場所


少年自然の家の森林

準備物

救急箱、はさみ、セロハンテープ、延長コード、デジタルカメラ、トランシーバー、パソコン
プリンター、各種用紙、里山歩き用地図、コンパス、虫かご、タモ網 他

アクティビティの展開

指導	進め方 (指導者の動き)	実施上の留意点
準備	<p>設営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の説明、作品作りで使用するテーブルに、必要物品を置く。 ・応急処置用テーブルと写真現像作業テーブルの準備 <p>事前踏査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所の最終確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に危険な障害物等を取り除く。必要があれば進入禁止などのロープを張る。
導入	<p>活動内容説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山をグループで歩く中で、周囲の自然に目を配り、課題に沿ったおもしろいものを見つけ、デジタルカメラに撮影する。 ・落ちている枝や落ち葉、木の実など自然物の中から、作品作りの材料を集めてくる。 ・生きている昆虫や動物、草花は採取しないでカメラに撮影する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節によってはハチ、蛇、などに注意する。 ・参加者の健康を気遣いながら常時体調把握する。 ・熱中症に注意、水分補給を徹底する。 ・スタッフ間で携帯電話やトランシーバーを使い連絡を取る。

<p>展開</p>	<p>グループで行うネイチャークラフト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山で拾ってきた物を使って班で協力して作品を作る。  <p>山策のふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルカメラで撮影した写真をプロジェクターで投影し、各グループがどのような自然の中のおもしろいものを見つけたのか説明する。 ・写真の中で、撮影されたものが何に見えるか他のグループへクイズ形式で聞く。 <p>ネイチャークラフトのふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで創ったものをテーブルなどに置き、参加者がそれぞれ作品の場所に移動する。 ・他のグループが自然のものをどのように工夫して創ったのか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみなどの道具の使用には注意する。 ・何を作ろうか検討会議をし決まったテーマに従って、協力して作成できているか確認する。 ・作品を見ながら成果を共有する。
<p>ふりかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりカードに個人の感想を記入する。 ・見落としがちな里山の自然について新たに発見したことについて話をしたり、自分は気がつかなかったが他の人が気がついたおもしろい視点などについて共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の数の確認をし、危険物の移動に配慮(はさみなど)

アクティビティ作成者の思い

子どもが普段気づかない自然に興味を持てるようになることがこのアクティビティのねらいである。この活動を自分が住んでいる日常で生かすことができると、身近な自然に対する興味関心が深まるだろう。

また、グループで協力したり、グループ内の交流を深めるという際は、時間的にゆとりをもたせることが重要である。いろいろな活動を盛り込み慌ただしく実施するより、観察や作品創作、他グループの活動をふりかえることにじっくり時間を掛けることができればより充実した事業になると思われる。

実施上のアドバイス

夏に実施する場合、ハチなど危険な生き物への注意と熱中症防止のケアが大切である。

(4) 活動エリアの地域文化を知るアクティビティ

ア 前島探検

子ども交流・体験活動事業名：「ふるさとワクワク体験塾」

アクティビティのねらい

- ・前島へ歩いて渡り、島を探検することにより、幡豆町の歴史を知り、自然を満喫する。
- ・磯遊びを通して、海辺の生き物や植物を観察する。
- ・石や貝殻などにペイントし、仲間と共に身近にあるものを使った工作を楽しむ。

実施時期

7月頃

対象・参加人数

小学校3年生～中学生 約40名

実施場所



幡豆町立中央公民館研修室及び前島（旧うさぎ島）周辺

準備物

無人島探検（石や貝殻にペイント）・・・アクリル絵の具、絵筆、パレット、水、紙コップ、新聞紙全体・・・配布資料、木の名札、体験記録、バインダー、救急道具、ハンドマイク、トランシーバー
アクティビティの展開

指導	進め方(指導者の動き)	実施上の留意点
準備	<p>講師と打ち合わせ</p> <p>現場の状況確認のための最終下見（事業実施日の約1週間前）</p> <p>参加者の持ち物確認と体調のチェック（当日）</p> <p>スタッフの行程と緊急連絡体制の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・帽子、タオル、飲み物などを忘れない。 ・岩場は靴で歩くことを伝える。
導入	<p>前島へ移動</p> <p>講師より陸側から見た海に浮かぶ島や隣接する半島の名前などを説明する。</p> <p>海上を飛ぶ鳥や砂浜に落ちている貝・海藻の名前を説明する。</p> <p>現在も、前島には野生のクジャクが生息しているため、姿や泣き声が見聞きできるかもしれないことを説明する。</p> <p>〔解説〕</p> <p>参加者に地元の歴史を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回探検する前島（旧うさぎ島）には、以前うさぎが生息し、その南側にある沖島（旧猿が島）には猿が生息していた。また、観光船が行き来し、三河湾海上動物公園として観光名所になっていたという幡豆町の歴史の話などを紹介する。 ・幡豆石は、名古屋城天守台の石垣に使用されていることで有名であり、前島には現在も昔の石切りの後が残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、水分を補給するよう促す。 <p>（非常に暑い時期のため、熱中症へは十分配慮する。）</p>



<p>展開</p>	<p>前島での活動「海辺の自然観察及び磯遊び」 磯遊びができる島の反対側へ移動する。 各グループに海辺の生き物や植物の資料を配布する。 時間を決めて、グループごとに磯遊びをする。 ・この時間帯に、後に実施するペイントの材料を採取するよう子どもたちに指示する。 磯遊びで採取した生き物や植物をみんなで観賞する。 <子どもたちを移動させる際の注意> 天候や気温などの自然条件及び子どもたちの体調に合わせて実施する。 ・子どもたちの体力的・時間的な余裕があれば、岩場を歩き、島を1周する予定だったが、非常に暑い日で、子どもたちも体力を消耗していたため、今回は、反対側に抜ける道を通って移動する。 <子どもたちに説明をする際の注意> ・採取したものを観賞する時には、全員が見えるように集まり、講師より、どんな生き物・植物であるかを説明する。</p>  <p>ペイント実施のため島にある小屋へ移動 ・天候によっては、そのまま浜辺で実施も可能だが、夏の時期は、直射日光を避け、日影になっている場所を探して実施する。</p> <p>自然のものを使った工作(石や貝にペイント) グループごとに輪になり、ペイントの準備をする。 時間を決めて、各自好きな絵をペイントする。 出来た作品を一箇所に集め、全員で鑑賞し合う。 ・個性溢れる作品を褒め合う。</p>  <p>前島を出発し、施設へ移動 ・潮の満ち引きに合わせ、島から陸まで歩いて渡ることができる時間に移動をするため、事前に潮汐の確認をしておく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岩場を歩くときに足元を注意するよう促す。 ・スタッフの目の届く範囲で動くよう、移動の範囲を伝える。 ・建物が自分たちの所有物では無いことを伝え、地面に絵の具を付けないよう注意する。
<p>ふりかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験記録を記入する。 ・講師あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・人数確認

アクティビティ作成者の思い

普段は行けない島に渡っての活動なので全体にゆっくり活動できる時間をとることにより、前島の探検だけでなく、磯遊びやペイントに十分時間をかけることが可能となる。いろいろな活動と組み合わせることで前島というフィールドの自然、歴史を知る事業を考えた。ペイント(工作)は、自由に取り組みより1つ2つの見本があると、イメージがつかめ、取り組みやすい。

また、島を歩いて1周すると、より子どもたちの心に残る体験となるだろう。

実施上のアドバイス

実施時期(非常に暑い時期は避けた方が良くかもしれない)や実施時間を検討すれば、より充実し、とても楽しめる事業になると思う。

イ 秋の山路の自然と文化

事業名等：「ふるさと ワクワク体験塾」

アクティビティのねらい

- ・秋の弘法山（見影山）の山路を歩きながら、自然観察や紅葉を楽しむ。
- ・弘法山に出かけ、現地でそこにまつわる民話「だき地藏さん」と「弘法山と穴弘法」を紹介し、幡豆町の文化に触れる。
- ・高校生ボランティアを各グループに数名ずつ配置し一緒に活動することで青年の社会参加体験を創出する。

実施時期

11月頃

対象・参加人数

小学校3年生～中学生 約40名

実施場所


幡豆町役場～弘法山（幡豆町西幡豆地区）

準備物

机、イス、アンプ、マイク、マジックペン、紙、弘法山にまつわる民話の資料、紙芝居、配布資料、木の名札、バインダー、体験記録、救急道具、ハンドマイク 他

アクティビティの展開

指導	進め方(指導者の動き)	実施上の留意点
準備	<p>講師と打ち合わせ</p> <p>現場の状況確認のための最終下見（事業実施日の約1週間前）</p> <p>植物名当てクイズの準備</p> <p>民話紹介（紙芝居、朗読）の準備</p>	
導入	<p>アイスブレイク(青年リーダーや高校生ボランティアによるゲーム)</p> <p>ゲームにより、子どもたちの心と体の緊張をほぐす。</p> <p>登山に向けて、準備運動を兼ねて体を動かす。</p> <p>グループ対抗植物名当てクイズ</p> <p>机の上に会場近辺で採取した植物（55種）を並べる。</p> <p>グループの班長に紙とバインダーを配布する。</p> <p>グループごとに分かるものから解答を記入する。（15分程度）</p> <p>答え合わせをする。</p> <div data-bbox="896 1534 1259 1803" data-label="Image"> </div> <p>〔解説〕</p> <p>子どもたちに説明をする際の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考える時間はグループで交流しながら考えられるようにグループ対抗とし、グループに付くリーダーは話し合いができるように促す。 ・実物を手に取り、実際に子どもたちに触れさせながら説明する。 匂いを嗅ぎ、実際に触れるなどの体験を通じて、植物に関する知識を深める。 	<p>・山の麓で行う予定だったが、雨のため、先に室内で実施。</p>

<p>展開</p>	<p>弘法山へ移動 移動中も交通安全に配慮し、道端などの身の回りの植物を観察する。 事前にクイズで覚えた植物も、実際に生えている姿で確認する。</p> <p>弘法山にまつわる民話の紹介 机とイス、アンプ、マイクを用意し、紙芝居をセットする。 子どもたちを、階段に座らせ、真剣に聞ける状態を作る。 スタッフにより紙芝居・資料を紹介する。 民話の中に出てくる「だき地蔵」と「穴弘法」を見学する。 (弘法山へ登る。 雨が降った後で、足元が滑り危険なため中止) (頂上から、自分のふるさとを眺める。 同上)</p>  <p>〔解説〕 子どもたちに民話を紹介する際の注意 子どもたちの心に残るような工夫をする。 ・紙芝居が聞き手に伝わるよう気持ちを込めて読む。 (男役・女役など、複数名で紹介。) ・現地まで出向き、民話に出てくる実物を自分の目で確認させる。 ・後で自分で振り返れるよう、民話の資料を配布する。 (受付時、または帰り際に渡し、移動の邪魔にならないようにする。)</p> <p>弘法山から役場へ移動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ休憩 ・人数確認 <p>登山時の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足元注意を促す ・急傾斜で滑るので走らず、間隔を少し取りながら歩くよう呼びかける。 ・水分補給 <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ休憩 ・人数確認
<p>ふりかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験記録を記入する。 ・講師あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・人数確認

アクティビティ作成者の思い

自然の中で行う交流・体験活動は天候に左右されることもあり、天候の急変にいかに対応できるかが重要である。今回あえて雨で活動を急遽変更するアクティビティ事例を作成した。活動変更の一番のねらいは、参加者の安全面である。おそらく事業担当者は、山の頂上からの素晴らしいふるさとの景色を子どもたちに見せたいと考え無理して強行してしまうことがあるかもしれない。その無理が大きな事故を生むことが多い。

急遽変更した身近に生えている植物を使ったクイズで植物を覚えたり、スタッフによる地元の民話紹介などにより、地元につながる民話への興味や関心を抱いてもらえればと願う。

今後の改善点

どんな事業においても、天候以外にも事故や突然のアクシデント、進行の変更に対応できるよう、いろいろな事態を想定しておき、準備をしておくことが必要である。

ウ 伝統文化の記録と祭りへ参加

子ども交流・体験活動事業名：「 の伝統文化を“聞き書き”&祭りへ参加！」

アクティビティのねらい

- ・各地域の残る伝統芸能、昔からの祭り、文化財、特産物などについて、歴史、地域との関わり、青年団や子どもの関わり方などを自分たちでテーマを決めて聞き書きすることで地域文化を理解し、地域文化財産を共有する。
- ・聞き書きしたことの中で、参加者全員で体験できることを実際に体験することで地域文化の継承につなげる。

実施時期

1年中

対象・参加人数

中学生・高校生 20名

実施場所

各地域

準備物

聞き書き：フィールドノート、カメラ、録音機、地図

体験：活動に応じたもの

アクティビティの展開

指導	進め方(指導者の動き)	実施上の留意点
準備	<p>事業の流れ</p> <p>1回目の事業(地域文化の全体を知る、参加者で共有する) 地域文化を知る講義 対象地域の伝統芸能、祭り、特産物などについて各グループでHPや図書館などで調べ、どんなものがあるか抽出し発表する。 *各グループに事業担当者の中からアドバイザーを置く</p> <p>2回目の事業(聞き書きの準備) 各グループで聞き書きする地域文化、グループ内の役割を決める。 聞き書きする相手、期日の交渉、準備物などの検討 *アドバイザーは参加者が進行できる様に関係機関と調整する</p> <p>3～4回目の事業(聞き書きの実際) 各グループで実際に数人にインタビューを行い聞き書きする。 聞き書きした内容を次回の事業で発表できるようにまとめる。</p> <p>5回目の事業(聞き書きした内容の共有) 各グループの聞き書きした内容の発表 発表した内容の中で参加者全員が実際に体験するものを1つ決める *実際の体験についてどこまでできるのかについて担当者は調整する</p> <p>6回目の事業(聞き書きした内容の体験)</p> <p>7回目の事業(事業のふりかえり)</p> <p><留意点> 参加者のできることを運営担当者・アドバイザーが口を出し過ぎない 各グループで進めている内容が可能か、調整が必要なことは何か、一緒に行く必要があること、などについてアドバイザーは抑えておく。 各事業日の確定は難しいが決めておき、その日程で行うことも必要。</p>	<p>・各グループの人数は3～5人程度。</p> <p>・地域文化を調べたグループを解除して、参加者が聞き書きに興味ある内容で再編成しても良い。</p> <p>・聞き書きしたグループが体験についてリードしていくようにする。</p>

<p>展開</p>	<p>事業3～4回目の例 地域で長年続く地元神社(いわゆる氏神様)のお祭りについて聞き書きする。猩猩をつくり、笛や太鼓の祭り囃子を演奏しながら神社へ奉納するお祭り。 〔聞き書きの手順〕 聞き書き前調査：祭りの由来、昔と今の違い等を文献で調べる 聞き書き対象者：祭り保存会の会長、子ども時代に参加したお年寄り 実際に現在、祭り継承に関わっている子どもや青年 聞き書きの内容：昔の祭りの様子・賑わい、祭りの継承と実際の運営 祭りに関わる子どもや青年の意識、願い 聞き書きのまとめ：発表は聞き書きしたことをもとに、祭りの楽しさ、保存にかける思いが他のグループに伝わる様に祭りの写真を見せたり猩猩を絵に描いてみる。</p> <p>事業6回目の例 祭りの参加・・・この祭りに事業参加者全員が参加したいと決定 祭りの実行委員会と参加について相談(どのようか参加形態が可能か) *参加については事業担当者が可能な範囲を関係機関と事前調整 笛や囃子の練習あるいは猩猩の作成 祭りの運営会議の見学(スタッフの運営努力を知る) 実際に祭りに参加する</p> <p>事業の発展例 地域の行政広報紙に各グループが聞き書きした内容をシリーズで掲載 体験した祭りの楽しさ、保存していくことの大切さ、難しさを小中学校で発表する。</p> <p>地域文化聞き書きの事例 伝統芸能：祭り、三味線、太鼓、万歳、浄瑠璃 地域産業：農業、林業、漁業、醸造、陶器、和紙、染め まちづくり：まち(城下町や門前町)の変化、天災、街道の発達 自然環境：ウミガメの産卵、天然記念物の保護 あそび・運動：地域で盛んなスポーツ、伝承あそび</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話をしやすい雰囲気をつくる。 ・話の結果を導こうとせず、前の話の内容がさらに補足されていく様に相槌や言葉の繰返しを上手く使う。 ・図書館や行政機関で調べた資料について写真などがあれば見せながら話を聞き取る。
<p>ふりかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回参加後に個人のふりかえりシートを記入する ・ グループの発表が終わった時点でグループのふりかえりを行う ・ 全事業が終わったときに参加者全員でふりかえりを行い、参加者が自分の住む地域の活動に自ら参加できる様な支援をしていく。 	

アクティビティ作成者の思い

地域に伝統的に伝わる文化、地域の自然や地形に根ざした産業、まちづくりの知恵などが継承されていくことが難しい世の中である。また、地域の行事に参加する子どもや青年が減少し、伝統行事が継続できない状況も起きている。地域の自然環境を守ることやまちづくりのために先人の知恵を残し、現代の子どもの能力低下が叫ばれている聞きこと、書くことを伸ばす「伝統文化の聞き書き」はぜひ取り入れたい事業である。